

PDCAチェックシート

実施年度	令和5年度		
事務事業名	有害鳥獣等被害防止対策事業	担当課名	農林水産課
【Plan】計画	【Do】実施・実行	【Check】点検・評価	【Action】処置・改善
■目的 イノシシ及びサル等の有害鳥獣による農作物への被害軽減を図る。	■具体的取組 ○イノシシ等被害防止対策事業補助金 ・イノシシ(成獣) 10,000円/頭 ・サル(成獣) 20,000円/頭 ・シカ(成獣) 15,000円/頭 ※幼獣の奨励金は、成獣の1/2とする。 ・狩猟免許の取得者助成 100,000円(銃)、30,000円(罟) ○鳥獣被害対策実施隊 隊員数38人	■成果指標の具体的検証結果 (インプット・アウトプットに対するアウトカムの達成状況はどうか、また、達成できていない場合の原因は何なのか等の検証結果を具体的に記載) ①農作物被害金額の前年度比減 未達成 ②イノシシの捕獲頭数 達成 ③サルの捕獲頭数 達成 ④シカの捕獲頭数 達成 ⑤狩猟免許の取得者数 達成 【達成・未達成の原因】 ①本市における有害鳥獣による農作物の被害対策については、「寄せ付けない環境作り」「侵入防止施設の整備」「捕獲の奨励」の3本柱で積極的に取り組んでいる。それぞれ、「県・市と地元での追い払い講習の実施」「市単独補助金による防護柵設置支援」「国・県補助金等を活用した奨励金の交付」で対応している。 ②イノシシの捕獲頭数 全体的に個体減少傾向がみられ捕獲数が減少した。 ③サルの捕獲頭数 これまでサルの行動範囲が拡大傾向であったが、捕獲への警戒か行動ルートが人里から離れてきた。これに伴い被害も減少傾向にあった。捕獲についても減少となった。 ④シカの捕獲頭数 個体数が増加傾向にあり、イノシシが減少した地域でシカの侵入が確認されている。猟友会の積極的な捕獲活動により捕獲数が増加している。 ⑤狩猟免許の取得者数 ここ数年若手の狩猟者が増加。今後も有害鳥獣対策として周知、啓発に取り組み新規参入者の確保に取り組む。	■検証結果を受けての具体的対応 ①農作物被害金額の減少 これまでの基本姿勢「寄せ付けない環境作り」「侵入防止施設の整備」「捕獲の奨励」の3本柱を継続するとともに、被害防止対策で一番の有効策である有害鳥獣の個体数を減らすために必要な狩猟者の確保を図るよう、新規免許取得者に対する助成制度の周知を積極的に取り組む。これに加え、ワイヤーメッシュ柵等の設置支援及び地元における有害鳥獣の追い払い対策を支援する。追い払い対策としては、農作物被害防止対策協議会が市の補助を受け、有害鳥獣駆逐花火の配布を行っている。 ②③④イノシシ・サル・シカの捕獲頭数 現在の個体数の減少を一時的なものと認識し、各種有害鳥獣の出没や被害等の情報を猟友会と密に共有し、無捕獲地帯ができないようにする。 ⑤狩猟免許の取得者数 今後も有害鳥獣対策として新規参入者の確保に取り組む。また、免許取得後に実践経験を積んだ上で鳥獣被害対策実施隊への入隊へとつなげる。
■成果指標(アウトカム・KPI) ※ 【目標値】 ①農作物被害金額の前年度比減 R04調査被害額 【県】 127,595千円 【市】 10,607千円 ○イノシシ等被害防止対策事業補助金 ②イノシシの捕獲頭数 1,467頭 ③サルの捕獲頭数 262頭 ④シカの捕獲頭数 271頭 ⑤狩猟免許の取得者数 8人 【総合戦略KPI(R2～R6年度の累計)】 ②③④イノシシ・サル・シカの捕獲頭数 4,500頭 ⑤ 新規狩猟者数 28人 【達成値(R5実績値)】 ①農作物被害金額の前年度比減 R05調査被害額 【県】 79,624千円 【市】 10,701千円 ○イノシシ等被害防止対策事業補助金 ②イノシシの捕獲頭数 463頭 (27年度～累計 7,431頭) ③サルの捕獲頭数 120頭 (27年度～累計 1,446頭) ④シカの捕獲頭数 343頭 (28年度～累計 1,611頭) ⑤狩猟免許の取得者数 7人 (27年度～累計 44人)	■インプット(投入金額等) 事業費等 ○イノシシ等被害防止対策事業補助金 10,905千円 ○鳥獣被害対策実施隊員報酬 514千円 ○有害鳥獣被害対策助成金 1,558千円 (ワイヤーメッシュ柵等)		
	■アウトプット(数量等) 実施回数等 ○イノシシ等被害防止対策事業補助金 ・交付者数(捕獲) 72人 ・交付者数(免許取得) 7人 ○鳥獣被害対策実施隊 ・隊員出動延べ人数 242人 ○有害鳥獣被害対策助成金 ワイヤーメッシュ柵等設置 2,596m		

※KPI…重要業績評価指標。Key Performance Indicatorの略。アウトカムの達成度を具体的に示す指標(数値)をいう。